

七色シンフォニー

「四月は君の嘘」の OP2

いまあざ
今鮮やかなシンフォニー
なないろ
七色シンフォニー

わす 忘れようとする^{きず}ことで^い傷が癒えないのは
わす 忘れようとする^{おも}ことで^だ思い出されるから
ぼく めぐ めぐ めぐ めぐ めぐ めぐ
僕は巡り巡り巡り巡り巡ってく
と 止まった時計の前^{とけい}で^{まえ}立ちつくすのはやめよう^た

いつまでも^{きみ}君といたいと
つよ つよ おも
強く強く思うほど

いてもたってもいられなくなるよ
ぼく あめ きみ たいよう て つな
僕は雨 君は太陽 手を繋ごう
ぼく
僕らはここにいる

いまあざ
今鮮やかなシンフォニー
なないろ
七色シンフォニー
ひとりじゃ出^だせない音^{おと}が
あることに気が付^きいたよ^つ
な わら
泣いて笑ってドレミファソ
おも ひび あ
想い響き合うシンフォニー

しろ いき ま そら き
白いため息は いつの間にか空に消えて
み あ さくら
見上げれば 桜はピンクのつぼみをつける
ぼく めぐ めぐ めぐ めぐ めぐ めぐ
僕は巡り巡り巡り巡り巡ってく
よろこ せつ せ お はる ま
喜びも切なさも背負って 春を待っている

ふ し ぎ きみ えが お
不思議だよ 君の笑顔は
モノクロームの街^{まち}を
いろあざ そ
色鮮やかに 染めてゆくんだ
いま いっしゅん だ
ねえ 今この一瞬を抱きしめよう
ぼく
僕らはここにいる

そら はな
空に花びらひらり
はるいろ
春色シンフォニー
いま だ おと
今しか出せない音が
あることに気が付いたよ
きみ わら
君がいるから笑えるよ
とき わ あ
時を分かち合うシンフォニー

きみ まほうつか
君はいつも魔法使い
ふつう ひび
普通の日々のメロディー
そのすべてを 名曲にするんだ
そう まるでチャイコフスキー
ゆうき み おと
勇気に満ちた音をくれるんだ

いまあざ
今鮮やかなシンフォニー
なないろ
七色シンフォニー
ひとりじゃ出せない音が
あることに気が付いたよ
か あ
駆け上がるように ドレミファソ
ぼく かな
僕が奏でてるメロディー
きみ かな
君が奏でてるメロディー
おも ひび あ
想い響き合うシンフォニー

七色シンフォニー

「四月は君の嘘」の OP2

いまあざやかなシンフォニー

今 鮮

なないろシンフォニー

七色

わすれようとすることで きずが いえないのは

忘 傷 癒

わすれようとすることで おもいだされるから

忘 思 出

ぼくは めぐりめぐりめぐりめぐりめぐってく

僕 巡 巡 巡 巡 巡

とまったとけいのまえで たちつくすのはやめよう

止 時計 前 立

いつまでも きみといたいと

君

つよくつよくおも うほど

強 強 思

いてもたっても いられなくなるよ

ぼくは あめ きみは たいよう てをつなごう

僕 雨 君 太陽 手 繋

ぼくらはここにいる

僕

いまあざやかなシンフォニー

今 鮮

なないろシンフォニー

七色

ひとりじゃ だせない おとが

出 音

あることに きがついたよ

気 付

ないてわらって ドレミファソ

泣 笑

おもいひびきあ うシンフォニー

想 響 合

しろいためいきは いつのまにか そらにきえて

白 息 間 空 消

みあげれば さくらは ピンクのつぼみをつける

見上 桜

ぼくは めぐりめぐりめぐりめぐりめぐってく

僕 巡 巡 巡 巡 巡

よろこびもせつなさもせおって はるをまっている
喜 切 背負 春 待

ふしぎだよ きみのえがおは
不思議 君 笑顔

モノクロームのまちを
街

いろあざやかに そめてゆくんだ
色鮮 染

ねえ いまこのいっしゅんをだきしめよう
今 一瞬 抱

ぼくらはここにいる
僕

そらにはなびらひらり
空 花

はるいろシンフォニー
春色

いましかだせないおとが
今 出 音

あることにきがついたよ
気 付

きみがいるから わらえるよ
君 笑

ときをわかちあうシンフォニー
時 分 合

きみはいつも まほうつかい
君 魔法使

ふつうのひびのメロディー
普通 日々

そのすべてを めいきよくにするんだ
名曲

そう まるでチャイコフスキー

ゆうきにみちたおとをくれるんだ
勇気 満 音

いまあざやかなシンフォニー
今 鮮

なないろシンフォニー
七色

ひとりじゃだせないおとが
出 音

あることにきがついたよ
気 付

かけあがるように ドレミファソ
駆 上

ぼくがかなでてるメロディー
僕 奏

きみがかなでてるメロディー
君 奏

おもいひびきあうシンフォニー
想 響 合